

倫 理 学

1 構 成 員

	平成16年3月31日現在
教授	1人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	0人

2 教官の異動状況

森下直貴（教授）（H14.11.1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成15年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3編（3編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	5編（5編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森下直貴, 「産育への欲望」といかに向き合うか — 生殖医療と哲学者の役割. 中部哲学会年報: 35, 113-127, 2003.
2. 森下直貴, 人間が「目的存在」であることの根拠. 哲学と現代: 19, 53-69, 2003.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 庄司進一・大林雅之・森下直貴・赤林朗・白浜雅司，第1回医療倫理教育ワークショップ報告．医学教育：34(3), 187-192, 2003.

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森下直貴著『健康への欲望と〈安らぎ〉－ウェルビカミングの哲学』青木書店，2003.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 加藤尚武編『倫理力を鍛える』小学館，2003.
2. 木村利人ほか編『バイオエシックスハンドブック』法研，2003.
3. ノルデンフェルト著，石渡隆司・森下直貴（監訳）『健康の本質』時空出版，2003.
4. 高橋優三・鈴木康之編『新しい医学教育の流れ－'02医学教育セミナーとワークショップの記録』三恵社，2003.

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成15年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成15年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件（0万円）
(2) 厚生科学研究費	0件（0万円）
(3) 他政府機関による研究助成	0件（0万円）
(4) 財団助成金	0件（0万円）
(5) 受託研究または共同研究	0件（0万円）
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件（0万円）

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	1件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	1件
(6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

日本医学哲学倫理学会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本医学哲学倫理学会・理事・研究委員長

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成15年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成15年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. 健康概念を欲望論・生命論・倫理学との関連において捉えることで，その独自の次元を切り開いた。

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道

1. 「健康への欲望と〈安らぎ〉」：「ほん」，中日新聞 2003. 9. 30夕刊
2. 「健康への欲望と〈安らぎ〉」：図書新聞，第654号，2003. 11. 15
3. 「健康の本質」：図書新聞，第2656号，2003. 12. 6